

安曇野の“花” “花” プロジェクト

本山 修一郎

5月の安曇野に広がる菜の花畑、れんげ草畑

常念岳の麓でミツバチと戯れたあの頃・・・
れんげ草の赤い花の中に寝転んで、恋人と語らった懐かしい日々・・・

8月のひまわり畑、ソバ畑

太陽を追いかけて、一斉に南を向くひまわり達・・・
白やピンクのかわいい花が風にゆれるソバ畑・・・

今、安曇野には菜の花やれんげ草などの花作りに取り組んでいる人達が大勢います。
私も、その一人。安曇野を花の里にしませんか？
先ず、私の考えている“花”復活作戦をご紹介します。

れんげ草

- 1、秋、れんげ草の種まき。
- 2、5,000haのれんげ草の絨毯を作る。
- 3、5月の大型連休を中心に、大勢の人にれんげ草畑に訪れてもらう。
- 4、養蜂業者に日本一のれんげ蜂蜜を採集してもらう（菜の花、ひまわり、ソバでも採集できる）。
- 5、花の見頃が終わったられんげ草を刈り取り、家畜用のサイレージ（大きなビニール袋のようなものの中に干草を詰めたもの）を作る。
- 6、その後、田植えが始まる。

◎ れんげ草の根は窒素同化作用があるので、自然の有機肥料が作られるよ。
どうだい、れんげ草の働きのすごいこと！

◎ 花を楽しみ、密を採り、餌になり、お米の肥料になるんです。

◎ れんげ草でサイレージを作ると、どの位の家畜の餌が作れると思う？

1haあたり10t作れるから

$10t \times 5,000ha = 50,000t$

農家は、これで家畜用の餌代を賄える。

農家レストランをやろうよ

蜂蜜をたっぷり塗ったパン・・・石釜で焼いたピザ・・・豚肉の燻製・・・

菜の花・ひまわり

- 1、菜の花は大豆畑の前作に。ひまわりは麦畑の後作に。
- 2、菜の花500ha（5月の大型連休頃が花の見頃）、ひまわり2,000ha（夏休みが花の見頃）の絨毯を作り、多くの人に花を見に来てもらう。
- 3、菜の花畑を見に来た人に、菜花（なばな）を摘んで、家に持ち帰って食してもらう。勿論無料で。いくらでも摘んでいってもらえばいい。花を摘む手間と菜花の交換だ。菜の花は、頭頂部の花を摘むと脇芽が沢山出て菜種油が沢山採れる。
- 4、そして食用油を絞ると、菜種油とひまわり油の油屋さん誕生。大勢の人が働く場所が出来る。
- 5、使った食用油（廃油）を回収すると、バイオディーゼル油を作ることが出来る。農業機械は自給した燃料で賄えるよ。コンバインなどは、仕事しながら菜種油・ひまわり油でピカピカになる。
- 6、油かすで有機肥料が作れる。

農家の後継者諸君、どうだい、一緒にやろうじゃないか！

今日はこの辺でおしまい。

次回は、花栽培による経済効果を発表する予定です。 観光客、蜂蜜、油・・・色々あります。 期待してね。